

## 自然史博物館の収蔵庫と標本の利用 3 —ニュージーランドの博物館—

### Te Papa 博物館

ニュージーランド国立博物館は最近全面的に改築され、1998年2月14日にTe Papa (正式にはMuseum of New Zealand Te Papa Tongarewa: 宝箱の意)として移転・開館した。自然史系・美術・歴史民俗各分野を扱う総合博物館である。この新博物館を最初に訪れた外国人研究者の一人としての印象を紹介する。

＜北九州市立自然史博物館 岡崎美彦＞



1. Museum Te Papaの外観。同博物館は、首都ウェリントンのダウンタウン近くの海岸にあり、交通アクセスは大変によい。開館まもないこともあって多数の観覧者でにぎわっていた。右側の柱にある指紋をデザイン化したものがシンボルマーク。



2. 「X線の部屋」の展示。自然史部門の展示で目を引くのは、多くの鯨類の骨格。ガラスの向こうに吊り下げられているのは歯鯨類の骨格。床にはマッコウクジラの、そして奥にはコセミクジラなどのヒゲ鯨類の頭骨が並ぶ。観客の頭上には巨大なシロナガスクジラの骨格が吊り下げられている。



3. 教育展示室。多くの標本に直接触れることができるようになっている。解説スタッフも多い。



4. 屋外展示。展示室から、右上に見える通路を通じて教育園に出られる。左側はニュージーランドの植生、中央に地学現象、写真にはみえないが左手前に、洞窟や化石発掘などを示す展示がある。

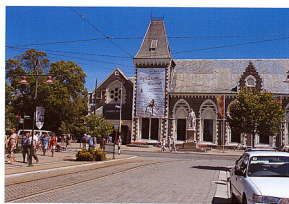


5. 鯨類骨格の収蔵庫。南半球最大の現生鯨骨格コレクションを収める収蔵庫。大規模な移動棚に整理されている。棚には段ボール箱に小型鯨類などを一頭ずつ収納してある。ヒゲ鯨などの大型のものは別の鉄製のかごに収納されている。この博物館のAnton van Helden氏は、ニュージーランドの鯨類ストランディングレコードのセンターを務めている。

## カンタベリー博物館

南島の中心都市クライストチャーチの公園にある総合博物館、旧来のスタイルを守った落ち着いた展示を行っている。植物園・美術館などと隣接していて、観光客の集まることとなっている。

＜北九州市立自然史博物館 岡崎美彦＞



1. 博物館の外観。クライストチャーチの中心街から観光路面電車が運行されており、アクセスはよい、歩いても15分程度である。博物館の向かって左側から奥に、広大な植物園が広がっている。特別展の垂れ幕がかかっている。



2. 化石の展示。ニュージーランド南島の古生物については、かなり詳しい解説や展示が行われている。これは有名なカニ化石の展示。



3. 昆虫の展示。昆虫については、ニュージーランドに生息する種類が多くないこともあって、余り大きな面積を使っていないが、引き出しを使って自由に標本を見ることができ。



4. 地質古生物収蔵庫。研究スタッフや出版物がそろっている割には、収蔵庫は面積が狭いように感じた。収蔵方法は古来のもの。

5. 古生物クリーニング室、クリーニング・研究中の脊椎動物化石。右は地質のキュレーター Norton Hiller氏、大型の長頸類化石の研究が進められている。

